

| 区 分             | 男   | 女   | 計     | 比 較   |
|-----------------|-----|-----|-------|-------|
| 総 計             | 985 | 453 | 1,438 | 100.0 |
| 記 学             | 10  |     | 10    | 0.7   |
| 哲 学             | 30  | 17  | 47    | 3.3   |
| 歴 史             | 32  | 16  | 48    | 3.3   |
| 社 会 科 学         | 384 | 209 | 593   | 41.2  |
| 自 然 科 学         | 66  | 35  | 101   | 7.0   |
| 工 業 学           | 3   |     | 3     | 0.2   |
| 産 業 学           | 14  | 8   | 22    | 1.5   |
| 芸 術 学           | 35  | 17  | 52    | 3.6   |
| 語 学             | 19  | 6   | 25    | 1.7   |
| 文 学             | 93  | 47  | 140   | 9.8   |
| 教 育 学           | 269 | 238 | 507   | 35.3  |
| 教 育 資 料 誌       | 35  | 8   | 43    | 3.0   |
| 雑 誌             | 26  | 2   | 28    | 2.0   |
| 室 だ け 利 用 の も の | 238 | 88  | 326   | 22.7  |

| 種 別                 | 男   | 女   | 計     | 比 較   |
|---------------------|-----|-----|-------|-------|
| 教 育 委 員 会 事 務 局 職 員 | 13  |     | 13    | 1.1   |
| 県 職 員               | 16  | 2   | 18    | 1.5   |
| 教 員                 | 32  | 13  | 45    | 3.7   |
| 福 大 学 芸 学 部         | 634 | 365 | 999   | 82.6  |
| 福 大 経 済 学 部         | 78  |     | 78    | 6.4   |
| 一 般                 | 47  | 10  | 57    | 4.7   |
| 計                   | 820 | 390 | 1,210 | 100.0 |

# 第八章 福島県立図書館

## 第一節 図書館界の流れはどうか

現在の図書館界のあるべき姿と、進むべき方向を今の館界の動向の中にとらえて問題点をのべてみたい。

一、図書館法、学校図書館法の制定実施により今や図書館は社会的存在として明確になり、もはや図書館という自分だけの穴の中でのものを考えてはやっていけなくなり、もっと広い立場で社会民衆というような全般的視野から図書館を見、考えていかねばならなくなった。即ち静的な書庫的な存在から動的なサービス機関になりつつあるが

いざんとして整理中心的態勢にあることを反省せざるを得ない。また動的なサービス機関になりつつあるとしても一部の人々を対象とする文化センター的な姿になって浮き上がった傾向にある。一般民衆を広く対象とするにはどうしたらよいか、特に不読者層への働きかけはどうしたらよいか。

二、図書館の規定する図書館専門職が尊重されない事例が多い。

その原因は、行政当局にあることが多いが、図書館自らもまた墓穴を掘らなかつたとはいえない。それは暫定資格による講習があまりにも安易に走り便宜主義になり専門職としての内容的軽重が問われていることによっても明

かである。専門職として尊重されるためには、再教育、養成計画の樹立が必要であり、専門職としての身分の確立のためには法的措置が必要である。そのためには関連法律とあわせて研究しなければならぬ。またこの問題については今後専門職確立を推進していくために現図書館員が日常の図書館活動においてじゅうぶん実績を示すようさらに一段と努力しなければならぬ。

三、図書館経営において資料の整理が必要なのは当然である。

人手が不足がちな図書館の現状において、新しい積極的サービス、例えば、レファレンスサービス、民衆の間に読書を浸透させることを実施するためには、新しく人手と経費を取得するか、内部態勢を革新するか、いずれかの方法をとらなければならぬ。その有力な方法として、図書館における整理面を合理化し機械化して各図書館が多くの人手を使って各個バラバラに整理にあたっている現状を打開する必要がある。このために国としてまたは出版界としてなんらかの施策、例えば印刷カードの無料頒布のための予算措置をして実施することがのぞましい。図書館界としてこの面で全国的要望を強く打